

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2020-1025	利用形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:地域住民コホート参加者のうち男性 約25,000人 試料:なし 情報:基本情報、調査票情報、タブレット調査情報から次の変数を用いる。 年齢、出生体重、現在の身長、現在の体重、20歳ごろのおよその体重、学歴、本人・家族の生年や出生地(都道府県)、現住所(都道府県)、家族構成、震災時の住まいの状況、現在の住まいの状況、震災後の住居移動、運動、飲酒、喫煙、身体的健康状態(疾病、投薬、主観的健康度)、精神的健康状態、認知能力、睡眠、人とのつながり、所得、就業状態
主たる研究機関	筑波大学			分担 研究機関	東北メディカル・メガバンク機構
研究題目	出生体重と中高年期の所得・就労状況との関連			研究期間	2020年4月～2025年3月
実施責任者	松島 みどり	所属	筑波大学人文社会系		職位 准教授
研究目的と意義	<p>近年、経済学分野での研究において、低体重で生まれた子どもは生涯にわたって健康、認知能力・非認知能力、生産能力といった様々な能力の獲得に不利な状態に陥る可能性が高いことが明らかになってきている。</p> <p>日本では低出生体重児割合が高く、医学分野を中心に低体重児、または極低出生体重児の発達やその支援方法について研究・議論されてきた。しかし、将来に与える影響についての研究は、日本においては限定的である。既存研究のうち、最も多くのアウトカム変数と低体重出生との関係を検証しているのは、Matsushima et al.(2019:JJIE)であるが、この日本の高齢者パネルを用いた研究では、低体重出生と、子どもの頃の学校でのパフォーマンス(自己評価)、15歳までの既往歴、学歴、54歳時点での就業状態、高齢期(調査時)の健康状態(疾病、主観的健康感)、認知能力の関係を確認するに留まっている。</p> <p>なお、低体重出生が生産能力の獲得に影響を与えるそのメカニズムとして考えられるのは、低体重出生が成人期の心身の健康状態、非認知能力を低下させ、それらが就業や所得に負の影響を与えるというものである。しかし、このメカニズムについては、国内外の研究を通して解明されていない。</p> <p>そのため、本研究では、東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査に参加している男性において、出生体重と中高年期の所得・就労状況との関連を明らかにすることを目的とする。</p>				
研究計画概要	<p>本研究では、東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査参加者について既に収集済みの基本情報・調査票・タブレット調査情報を用いて検討する。</p> <p>アウトカムは中年期の所得・就業状態とします。なお、当該データセットに含まれるサンプルは調査時期まで生存しているという点で生存者バイアスが発生している可能性がある。分析の結果、低体重出生が有意にアウトカムに影響しているならば、それらは下限値であることが予測される。一方で有意に影響をしていない場合には、生存者バイアスを考慮した考察を行う。</p>				
期待される成果	<p>本研究課題は東北メディカル・メガバンク計画の重点疾患を曝露とする解析を行うもので本体事業に関連する研究であるため、東北大学東北メディカル・メガバンク機構がデータ解析補助とその結果にコミットする必要がある。本研究で得られた成果を学会、論文などで発表することで、医学、公衆衛生学の進歩につなげる。</p>				
これまでの倫理 審査等の経過	2020年5月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認				
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	<p>ヒトを対象とする医学系研究の倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針の他、別途締結する研究契約を遵守して研究を遂行します。</p> <p>なお、情報はセキュリティが担保された媒体にて筑波大学に提供されますが、本情報には遺伝子情報や個人情報 は含まれません。筑波大学は東北メディカル・メガバンク機構の定める利用者用情報分譲(スタンダード)に関するセキュリティ実施ポリシーに則ってデータを管理します。</p>				
その他特記事項	科学研究費助成事業				
* 公開日	令和2年7月6日				